

2021年3月

気付けば、年度末となりました！昨年からの新型コロナウイルスの影響で思い出作りができにくい年でしたが、自分を見つめ直すいい機会であったように感じます。3月は、それぞれの進路に向かって友達と離れ離れになってしまう人がいると思いますが、これからも素敵な友達との出会いがありますように願います。来年度も松陰で過ごす人にとっても、今年こそはコロナが収束し、友達との思い出作りができることを祈ります！

さて、今回は今年の干支“うし”が登場する本をご紹介します。『牛たちの知られざる生活』ロザムンド・ヤング著 石崎比呂美訳 アダチプレス 2018です。イギリスでオーガニック農場を経営する著者が、農場で暮らす牛を中心に、鶏、豚、羊たちにまつわるさまざまな出来事を紹介している本です。動物たちにとって飼育されている環境がいかに大切なのかを知ることができます。それは、食する人間にとっても影響を与えるということ。例えば、特に興味深かったのがアレルギーです。買ったミルクではアレルギーが出るけれども、著者の牛のミルクなら大丈夫という友人たちのネットワークができています。著者は、アレルギーの原因はある特定の食品にあるというよりも、その食品の生産過程、つまり食品の元となる動物や植物がどう扱われているかにあるのではないかと述べています。具体的に言うと、動物たちにとっての食事・ストレス・睡眠・場所などが挙げられます。

また、人間にはそれぞれ性格が違いうように、牛も性格が異なるそうです。たとえば、人間に世話をされて当然と受け止める牛もいれば、感謝をする牛がいます。また、食の好み、コミュニケーションの取り方、成長のスピード、知恵、愛情などもそれぞれ違います。また、ミルクの味や成分も、品種や年齢が同じであっても違うようです。

この本を読んでいると、著者の牛への深い愛情を感じることができます。いつもと違う行動に瞬時に気付き、牛のプライドを尊重することの大切さ。牛たちそれぞれの喜怒哀楽のドラマは、私たち人間に何か教えてくれているように感じます。母牛と子牛は、ほとんどが強い絆で結ばれているし、友情も築くことができます。しかも、牛にはうわべの友情はないそうです。相手を思う気持ちはあくまで純粋で一途で、だからといってべたべたしたり、感傷的になったりすることはないと著者はおっしゃっています。時として、牛に見習わなければならない部分もあるのではないかと感じます。

#### 牛について知っておくべき20のこと（巻末抜粋）

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| 1 愛情がある（例外をのぞけば）   | 11 ときに一緒にいてとても楽しい    |
| 2 友達のために子守をする      | 12 ときに一緒にいると退屈きわまりない |
| 3 うらみを抱く           | 13 ときに知的だ            |
| 4 遊びを考案する          | 14 音楽が好きだ            |
| 5 腹を立てる            | 15 ときに平和主義だ          |
| 6 人間とコミュニケーションを取れる | 16 ときに攻撃的だ           |
| 7 問題を解決することができる    | 17 ときに頼りになる          |
| 8 生涯の友を作る          | 18 ときに寛容だ            |
| 9 食べ物の好みがある        | 19 ときに頑固だ            |
| 10 行動はときに予測不可能である  | 20 ときに思慮深い           |

